733-024ウ
1200500751947
33
24

始

芥子園彩版画集

733
0.24

930
34

限定版
千部
百冊
内 26

小川芋銭子賦彩版画集

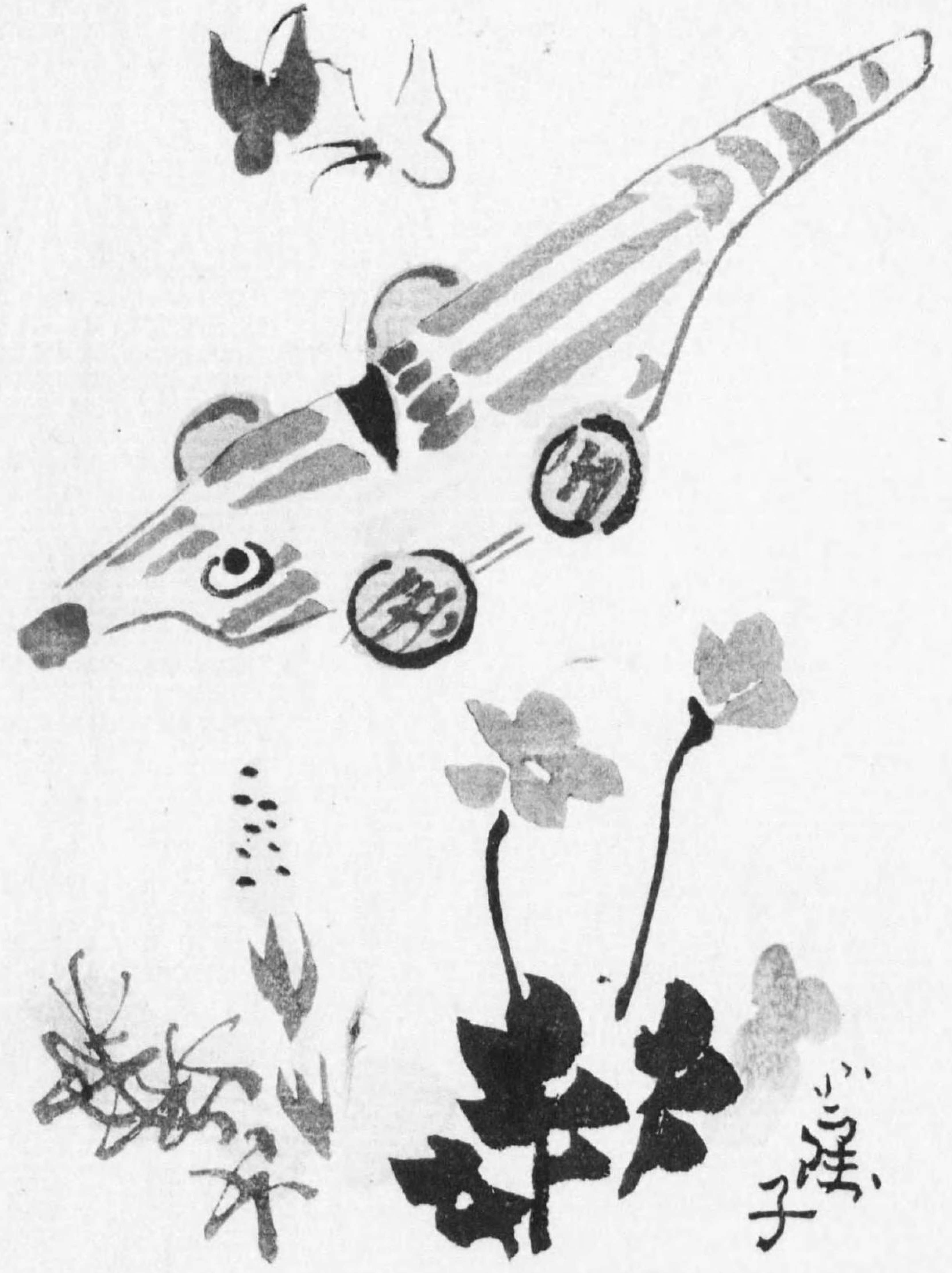
木版手摺千部限定　青果堂版

目次

空庭逐春
○曼珠沙華
野梅
○合歓
○春を待つ
まこもる
蛇の衣
九月、葉、か記
○雲雀
○栗
魚祭
○秋の水
維子年
○菊
農月旅又采
○芒種
螢急
○達忌

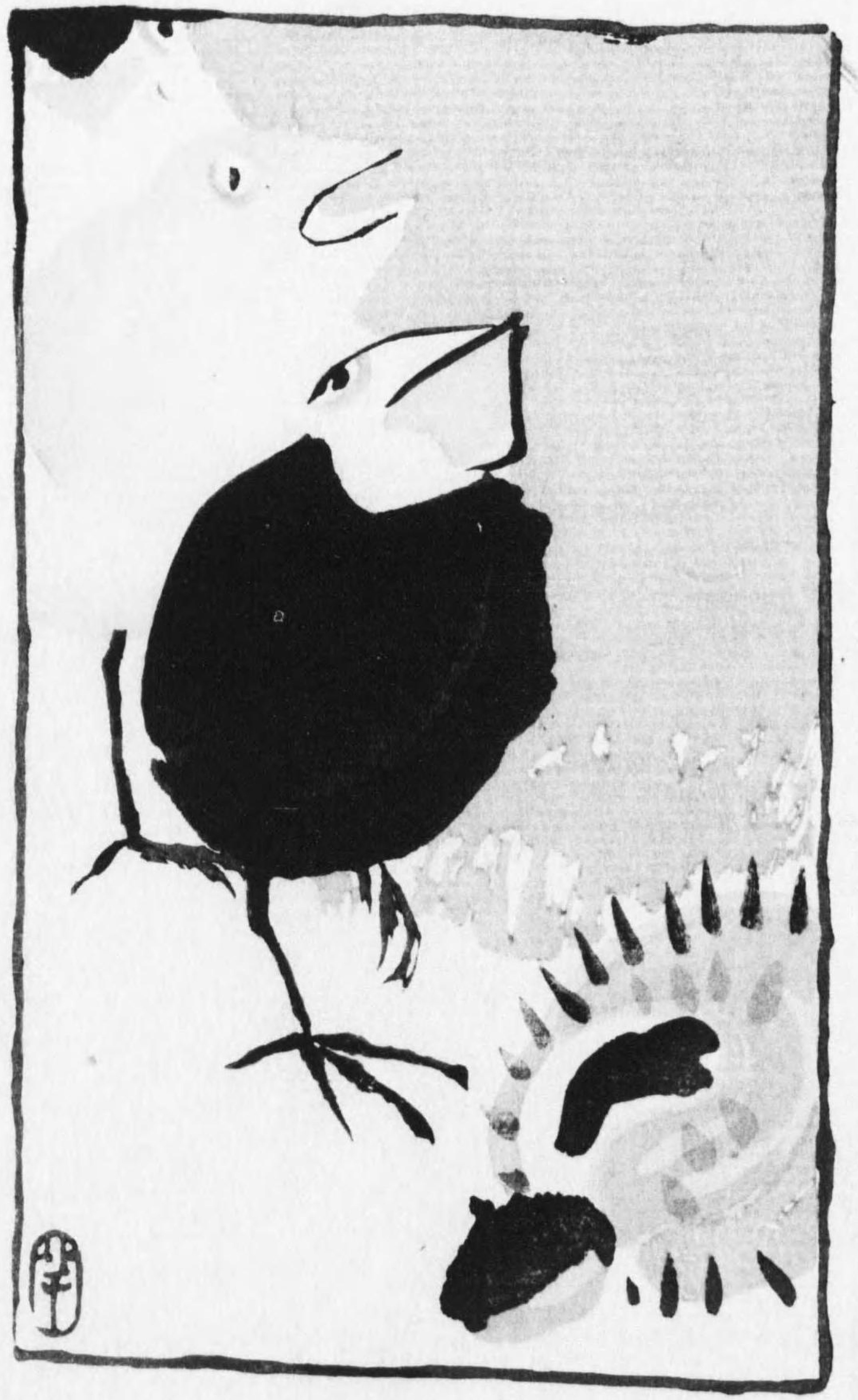
本輯の作○印は宝船に掲載されしものにして他はホトトギスの作なり、宝船には俳句の課題により作画されたり。ホトトギスには昭和九年に至る作画されました。

出穴
蛇旧衣



農月忙又一木
ふう陳子

水草
雨



奥書

この賦彩版画集をこの陽春の頃に発行の
予定でしたが様々な困難に遭遇しました それは
原画が孔版でありますので それを木版画に人の力
で換へるのが至難であつたのです。 作中いづれも
木版画として自信を持ちますが ただ「出穴」が木版画と
して成功出来ませんでした。すなはち孔版‖スフが混
てゐるのです。 後世版画史を編む人にはいかにこの一冊
が批評を受くべきかを期待するのです
既刊の子画帖の流を見ますと俳句誌にて
子画をなじみの人よりも其後の芋銭なじみの人の
方が多いようです。芋銭さんの作を通覧するには
この二つの俳句雑誌の「さし画」をもとにするよりは
出来ないのかと思います。 そんなことを思惟しますると限
定にせず価も下げて大衆出版の方がよかつたのです
が永く種々な点に変形をもつた次第です
彫刻師の久保井老人はよる年波に抗しかねずとに辞り
ませんが、よい仕事の出来ますのはて、数年と存じますので
矢継早に仕事を残すため漢仙氏の子画百作。土浦の秋元
梧郎氏と芋銭氏夏目漱石氏との合作による一茶の句を
漱石氏が書し それに芋銭さんが描きたる此の題して三愚集
（賦彩版画二十七作俳句二十七句）これに未だホトトギス誌の御諒解をえま
せんが森田恒友さんの賦彩版画、 百穂氏の草画等を初め支度ます。
これ等は資金もさることながら 資材もこの度の用紙の今は
の案我が意のようになりませんので 初版二百部しか出来ませんで
した。この版は子果版と称し青果堂の私版です
子輯にて十六作と予告しましたが二冊画帖に変更するの
得ない点がありましたのでそれを附添しおる。

小川芋銭子賦彩版画集

昭和十六年十二月廿二日 印刷
昭和十六年十二月廿六日 発行

定價金六円 送費十二銭

編輯兼発行者 中島重太郎
彫刻者 久保井市太郎
摺刷者 大谷清

東京市渋谷区代々木山谷町百三十四番地

発行處 青果堂
振替東京三三六五六番

既刊

小川芋銭翁 芋画帖

和紙、木版、手摺、全百作
千部限定、全四冊

大正にの芋銭子は芋画を主として作られた、それは二三の新聞と俳句雑誌ホトトギスと宝船に多数の作を送られた。その内百作を撰び斯道の権威久保井氏により忠実に手摺と改めオリヂナル版画とした実に新鮮味の横溢せる一大芋銭の偉大さがある

一輯二円五十銭 〒十二銭 全冊十円送料共
但し直接購読者に限る

930
31

終